

事後評価報告書  
(日本-EU 研究交流)

1. 研究課題名: 安全・省エネルギーなメタン貯蔵用のナノラジエータ装着吸着剤

2. 研究代表者名:

日本側: 信州大学環境・エネルギー材料科学研究所 特別特任教授 金子 克美

相手側: University of Milano, Department of Chemistry Associate Professor Lucia Carlucci

3. 総合評価: A

4. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

カーボンの細孔がメタンハイドレート結晶の成長を著しく増大させること、グラフェンとMOFのハイブリッド化など、意義の高い発見がなされており、研究背景の異なる研究者が相互の研究内容を理解しながら、共通認識を得て、十分な成果が得られている。Nature Communication に共著論文が掲載されるなど、連名の発表論文も2編あり、共同研究が円滑に遂行されたものと評価できるが、各グループの特徴が若干掴みにくく、本事業の報告書において、どのような役割分担になっているのかに付いて、もう少し判りやすく説明があれば良かった。

(2) 交流活動の評価について

ワークショップやセミナーを活発に行って交流を深め、5か国の研究代表者のネットワークが構築された結果、バランスの良い共同研究が進展したと評価できる。プロジェクトワークショップにあわせて、2つの国際会議を組織したことも国際交流事業として十分な成果が得られたと認められる。日本側からの若手研究者の短期滞在は行っているが、大学院生の参加は少ない。若手人材育成の観点から大学院学生の長期派遣などに取り組むことが望ましかった。また、国内のワークショップやセミナーでは、大学院生等を含めた検討討論を行うべきであった。国内の参画者も1研究室だけではなく、複数であったほうが多角的な取り組みができたように思われる。

(3) その他

極めて多くの先端分野での専門家集団による共同開発としては、具体的成果がやや物足りないように感じられる。研究目的である吸着剤の開発に達していないので、実用化の観点から今後の共同研究の進展を期待する。